

平成24年12月4日

大臣官房人事課

平成24年度人事院総裁賞受賞者の天皇皇后両陛下の御接見の決定について

このたび平成24年度人事院総裁賞受賞者を天皇皇后両陛下が御接見になられることが公表されました。御接見は、来る12月10日午後3時から皇居において賜る予定です。

また、御接見に先立ちまして、同日午前11時15分から明治記念館(東京都港区)において、人事院主催により人事院総裁賞授与式を開催いたします。

◎受賞職域グループ

- ・東北地方整備局「くしの歯作戦啓開チーム」・「航路啓開チーム」
- ・東京航空局仙台空港事務所

以上

お問い合わせ先

国土交通省大臣官房人事課栄典班 小原・藤森【授与式関係】

TEL:03-5253-8111 (内線 21-226,21-216) 直通 03-5253-8169 FAX:03-5253-1521

国土交通省東北地方整備局総務部人事課長 深澤【「くしの歯作戦啓開チーム」・「航路啓開チーム」事業関係】

TEL:022-225-2171 (内線 2251) 直通 022-215-1097 FAX:022-263-1886

国土交通省東京航空局仙台空港事務所総務部長 菅野【仙台空港復旧事業関係】

TEL:022-383-1211 (内線 101) 直通 022-383-1211 FAX:022-383-1257

東北地方整備局「くしの歯作戦啓開チーム」・「航路啓開チーム」

顕彰理由

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分に発生した「東日本大震災」は高さ 15m を超える津波を伴い、東日本太平洋沿岸を中心に広い範囲において未曾有の被害をもたらした。大津波による家屋や自動車・船舶などが大量のがれきとなり道路や港湾を塞いだため、各職域の職員は発災直後余震や津波の危険性のある中、一刻も早い人命救助や避難者への物資支援、すみやかな復旧活動のため、道路や港湾のルートを切り開く「啓開」を昼夜を問わず多くの関係者と連携して短期間で成し遂げて輸送の確保に貢献し、もって公務の信頼の確保と向上に寄与した。

「くしの歯作戦啓開チーム」・「航路啓開チーム」活動詳細

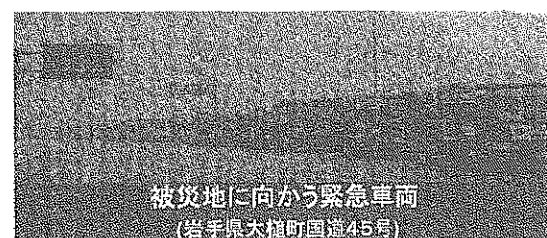
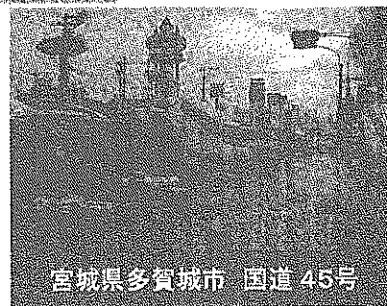
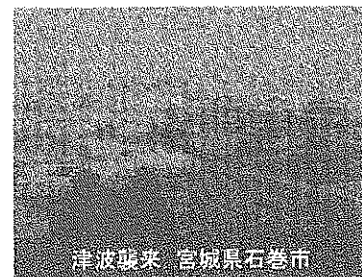
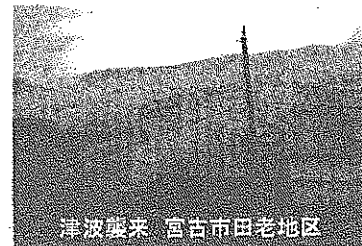
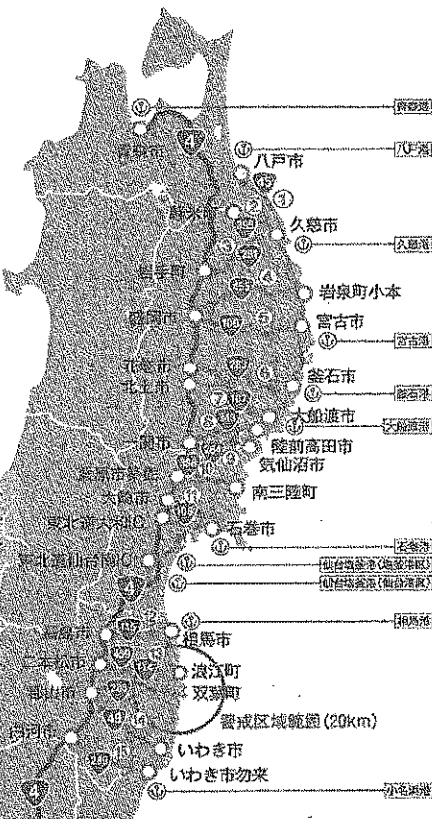
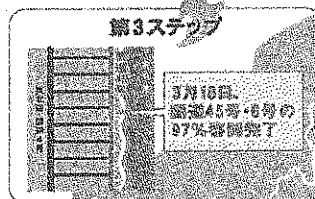
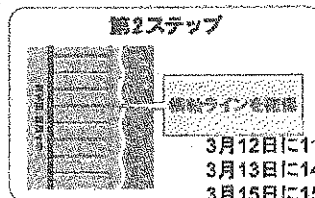
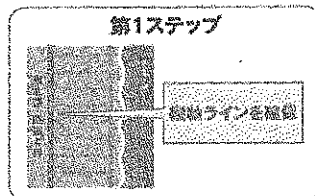
《くしの歯作戦啓開チーム》 東北地方整備局では地震発生直後から、第 1 ステップ（内陸の東北自動車道と国道 4 号の縦軸ラインの確保）、第 2 ステップ（内陸から沿岸への横軸ラインの確保）、第 3 ステップ（太平洋沿岸の国道 6 号と 45 号の路線を確保）の「くしの歯作戦」を進めた。余震や大津波警報が続く中、オイルタンク等の危険物も多くあったことに加えて、がれきの中に被災者がいないか慎重に確認しながらの作業は困難を極めたが、警察、地元自治体等とも調整を図り、「一人でも多くの命を助けるために」との思いで昼夜を問わず作業を進め、3 月 15 日までに横断軸 16 ルートのうち 15 ルートを確保し、さらに 3 月 18 日には国道 6 号と 45 号の 97% について啓開を終了させ、緊急車両の通行や支援物資の輸送ができるようになった。

《航路啓開チーム》 海上ルートでは津波注意報解除の翌朝から啓開作業を開始した。津波被害を免れた地元 4 船団を優先啓開港（宮古港、釜石港、仙台塩釜港）に投入するとともに、全国から作業船団を吹雪舞う悪天候を突いて東北に集結させた。船の燃料不足、浮遊がれき、海中の濁り、余震に伴う津波の恐れ等を克服しての作業であった。この結果、3 月 16 日の釜石港を皮切りに、23 日までに被災した主要 9 港全てで船舶による緊急物資の搬入が可能となった。特に、仙台塩釜港では 21 日から、八戸港では 25 日から油タンカーの入港が始まり、ガソリン不足等の解消に繋がった。

【職域】 国土交通省東北地方整備局「くしの歯作戦啓開チーム」

『くしの歯作戦』 ～命の道を切り開く～

津波で多くの被災者の発生が想定される沿岸部へ進出するため、内陸部の東北道・国道4号から東西方向の「くしの歯型」の国道による救命・救援ルートの確保を計画。2日間で11ルートの横軸ラインを通行可能に。



【職域】 国土交通省東北地方整備局「航路啓開チーム」

『航路啓開』～被災地への供給ルートを切り開く～

津波から生き残った地元4船団を優先啓開港に投入し、津波注意報解除の翌朝(3月14日)から航路啓開を開始。全国から集めた船団も順次各港に投入。3月23日までに主要9港全てが接岸可能に。

		3/14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
八戸港											
久慈港											
宮古港											
金石港											
大船渡港											
石巻港											
仙台塩釜港											
塩釜港区											
仙台港区											
相馬港											
小名浜港											

☐ 船団投入
☐ 航路啓開
☐ 航行規制解除
 ※利用可能な船団を投入し、航路を開設して航行規制を解除する。



津波襲来 金石港港事務所より



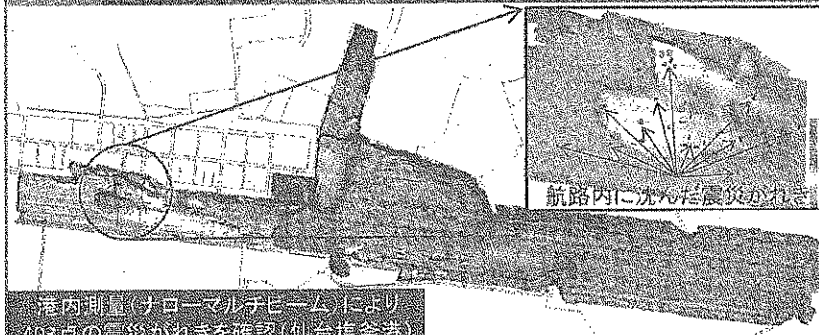
家屋の除去(金石港)



自動車の除去(仙台塩釜港)



流出した木材の除去(石巻港)



港内測量(ナローマルチビーム)により
483点の震災かげきを確認(仙台塩釜港)



航路啓開の結果、優先啓開港の一つとした金石港に物資が到着
(船舶は中部地方整備局保有の清龍丸)

塩釜港にタンカー

食品など 西日本の工場フル稼働

東奥日報(2011年3月22日)

塩釜港にタンカーが到着し、食品などの物資が積み込まれている。西日本の工場がフル稼働している。また、港内には多くの船が待機しており、航路の再開が期待されている。

供食回復の動き加速

東京航空局仙台空港事務所

顕彰理由

東京航空局仙台空港事務所は、3月11日に発生した東日本大震災による津波により仙台空港は壊滅的打撃を受け、事務所が被災しただけでなく、職員も被災しているにもかかわらず、また、余震も連続的に発生し津波の危険性もあるなか、事務所職員一丸となり、復旧に半年以上はかかると思慮されていた仙台空港復旧のために尽力し、約1ヶ月後には民間機の就航が再開されるなど、国民生活の安全・安心の確保に精励し、公務の信頼を高めることに寄与するものである。

仙台空港復旧活動詳細

仙台空港は壊滅的打撃を受け、空港事務所においても被災しただけでなく、職員も被災しているにもかかわらず、その後、事務所職員一丸となって、水道・電気といった主要ライフラインが寸断され、トイレ使用に影響する下水道まで使えないと言った劣悪な環境の中で、昼夜を問わず対応可能な職務に専念し、自衛隊及び米軍他、多くの団体等から支援協力を受けつつ、調整を進めながら、仙台空港の早期復旧に努め、以下の運用を可能とした。

- ・ 3月15日：滑走路500m運用再開：ヘリコプター(救援機)離着陸再開。
- ・ 3月16日：滑走路東側1,500m暫定使用開始：空港復旧作業協力のため米軍輸送機(C130)2機着陸。
- ・ 3月17日：交通情報等一部の航空保安業務の提供開始。
- ・ 3月18日：救援物資輸送として、米軍輸送機(C130、C17)着陸開始
- ・ 3月22日：交通情報等一部の航空保安業務の提供を24時間に延長(～5月2日)。
- ・ 3月25日：航空保安無線施設(仙台VOR/DME)運用再開。
- ・ 3月29日：滑走路及び滑走路灯火等の復旧により、夜間を含む3,000m滑走路の使用可能(救援機のみ)。
- ・ 3月31日：非常用管制塔で情報提供業務開始。
- ・ 4月10日：仮設場周柵設置完了。
- ・ 4月13日：民間旅客機運航再開。

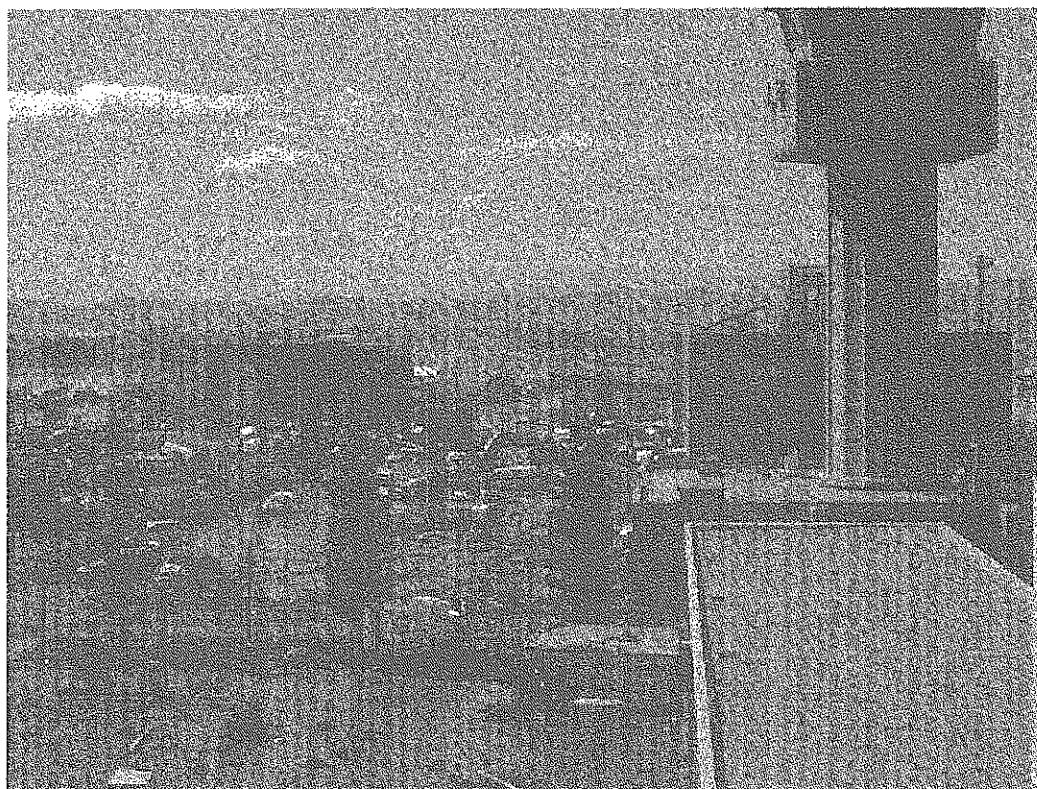
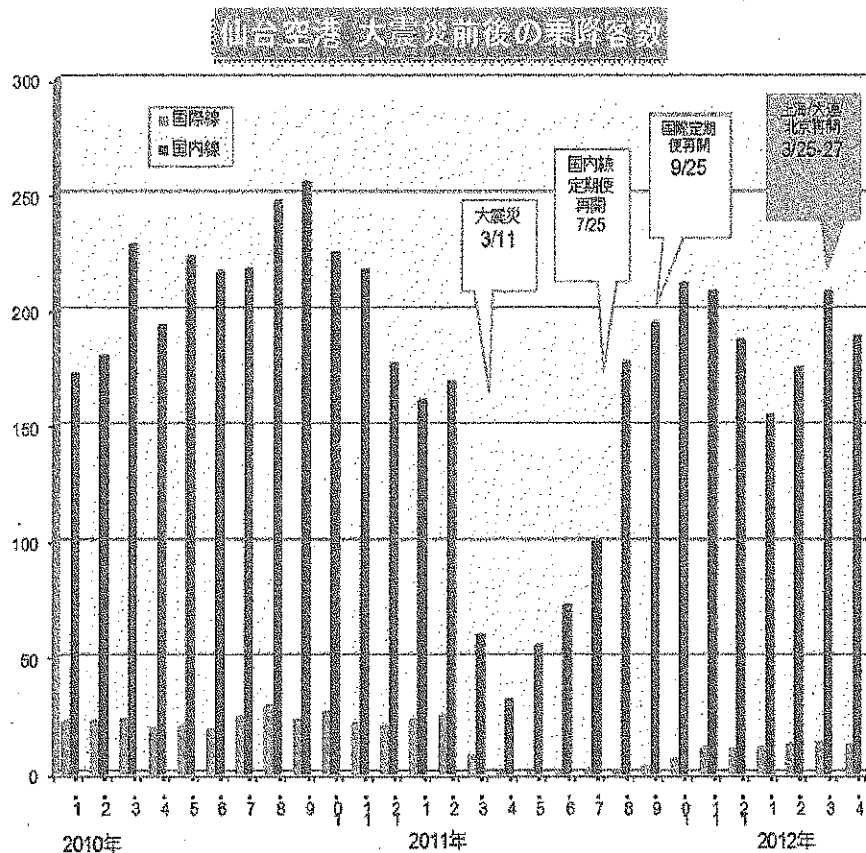
地震災害時に空港の役割として、救急・救命活動等の拠点あるいは、緊急物資、人員等輸送受け入れ機能を確保することや、航空ネットワークの維持及び背後圏経済活動の継続性確保のために、被災後極力早期の段階で定期民間航空機の運航可能を求められるが、以上の状況により災害発生後から救援作業人員

及び支援物資の早期輸送等に向けての復旧に努めるため、余震が引き続きあり、いつまた津波が来るという不安感を持ちながら、エプロン上に設置された非常用管制塔で管制業務や、狭隘な非常用レーダー室での業務を行い、約1ヶ月後には民間機の就航が再開されるなど、東北震災地の復旧・復興のシンボルとなるだけではなく、鉄道や道路が不完全な状況において東北の拠点都市仙台と東京・大阪との貴重な交通手段として機能させることができたのは、国民生活の安全・安心の確保に精励し、公務の信頼を高めることに寄与するものである。

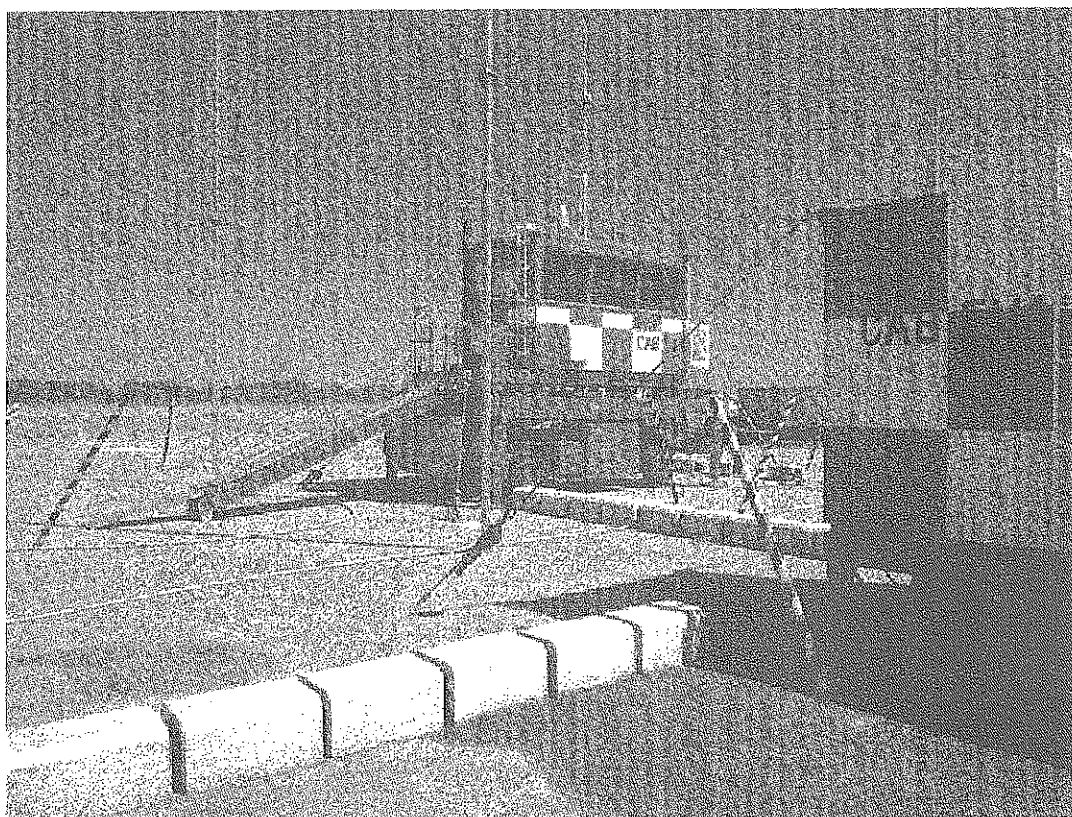
なお、被災直後、暗闇の中、近隣の仙台エアカーゴターミナルビル火災による避難者32名を受け入れ、安全な場所へ避難誘導し、数少ない自らの食料・飲料水及び毛布等を避難者に提供したり、震災翌日の12日のターミナルビルにおいて自らの避難を後回しにしながらも、負傷した避難者を背負っていまだ泥まみれのターミナルの駐車場を横切り、空港近くまでボートで漕ぎ着けてきた消防救助隊へ引き渡すなど公務の信頼を高めることに寄与した。

【職域】 国土交通省東京航空局仙台空港事務所

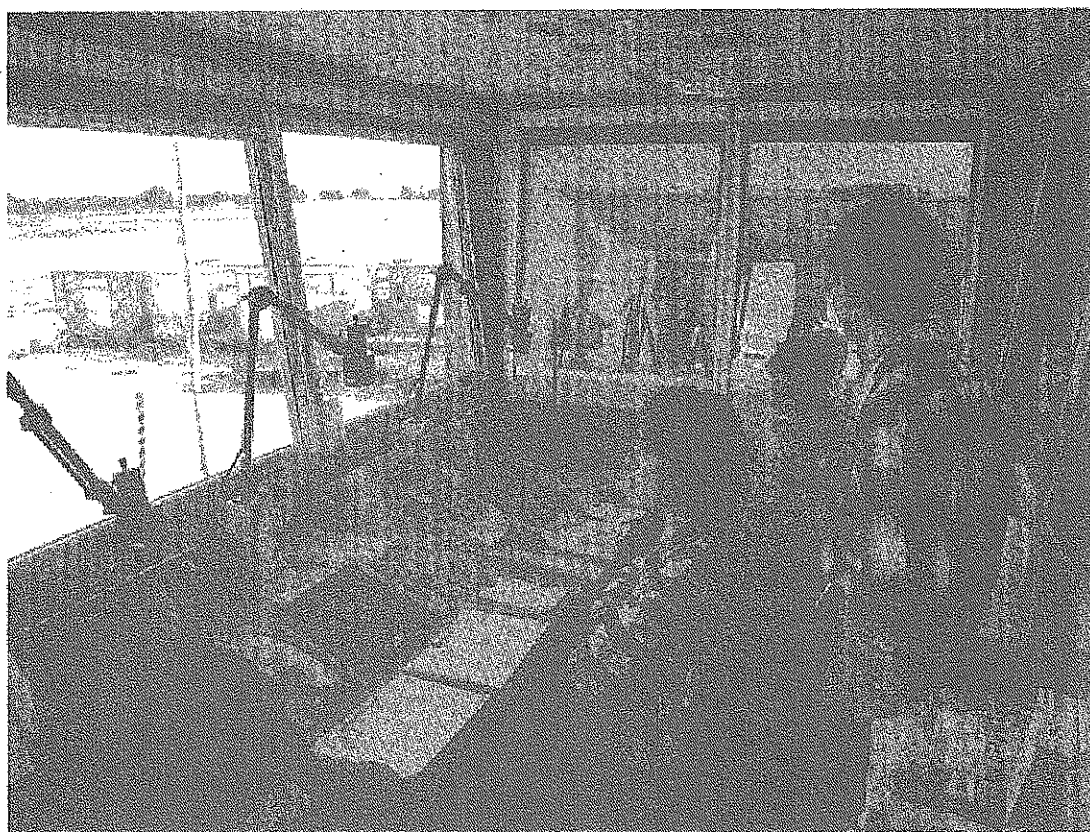
乗降客数		
年月	国際線	国内線
H 22 1月	22,309	172,461
2月	22,624	180,314
3月	23,366	228,408
4月	19,338	193,362
5月	20,400	223,596
6月	18,852	216,680
7月	24,510	218,022
8月	29,300	246,962
9月	22,962	255,247
10月	26,521	225,034
11月	21,605	217,533
12月	20,415	176,926
23 1月	23,423	161,134
2月	24,315	169,265
3月	7,301	59,854
4月	0	31,628
5月	0	54,937
6月	320	73,099
7月	1,634	100,375
8月	261	177,297
9月	3,083	194,657
10月	6,053	211,723
11月	10,667	208,328
12月	10,529	187,060
24 1月	10,991	154,445
2月	12,525	175,091
3月	13,163	208,138
4月	12,368	189,575
5月		



大量の土砂・瓦礫と流された車両及び火災のあった貨物ビル（中央左）



エプロン上に設置された非常用管制塔



非常用管制塔での米軍との共同運用